

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.8(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



生徒(図書選定委員)が選んだ本がたくさん入りました!

『はたらく細胞』

清水茜

人間の体内にある細胞をキャラクター化した人気マンガです。例えば、酸素を運ぶ赤血球は赤い服を着た女の子、バイキンを倒す白血球は全身が白い男、そしてバイキンやウイルスは怪物、といった描かれ方です。病気やアレルギー、薬などについても詳しい知識が、知らない間に学べますよ。医療に興味のある方には、特におすすめの本です。

『怖くて眠れなくなる科学』

竹内薫

ギロチンで実際に首を切られるとどう感じるのか、人類を滅亡させるほどの小惑星は空から降ってくるのか、新型インフルエンザがもし流行すれば生き延びられるのか・・・サイエンス・ライターとして著名な筆者が、科学の視点から見た「コワ〜い話」を繰り広げます。ほかにも『面白くて眠れなくなる生物学』『面白くて眠れなくなる数学 BEST』も入りました。

『また、同じ夢を見ていた』

住野よる

『君の膵臓が食いたい』の大ヒットで衝撃的なデビューを飾った、住野氏による長編小説第2作です。主人公の女子小学生・奈ノ花(なのか)は、皆から嫌われていると思っており、学校に友達はいませんでした。ある時、学校の授業で「幸せとは何か?」を考えることが取り上げられ、奈ノ花なりに「幸せ」の意味を考え始めますが・・・
なお、『君の膵臓』のコミック版もあらたに入りました。

このほか、赤川次郎の「三毛猫ホームズ」シリーズや人気漫画『黒子のバスケ』の小説版、和田竜の歴史小説『村上海賊の娘』のコミック版、鴨志田一のライトノベル『さくら荘のペットな彼女』、トマス・ハリスの小説『ハンニバル・ライジング』や『レッド・ドラゴン』、また『羊たちの沈黙』の原書(英語版)など、多数ご用意しております。

『発達障害』

岩波明

「空気が読めない」という点で社会になじみにくい一面がある発達障害の人たち。しかし『不思議の国のアリス』のルイス・キャロルや童話のアンデルセンなども、この発達障害の持ち主であったと言われます。この本は、医学的見地から障害について詳しく解説するとともに、社会に受け入れられた発達障害の人たちの事例を挙げて、これからの障害者への支援のあり方を考えていきます。

『フランス人は10着しか服を持たない ファイナル・レッスン』

ジェニファー・L・スコット

累計100万部を超える人気シリーズの最新作です。『凜(りん)とした魅力がすべてを変える』というサブタイトルが付いていますが、キリリと引き締まったような生き方を提案する、おしゃれな人生論としても読めます。なお、コミック版の「ファッション&ビューティ編」も入りました。

『スノーデン 日本への警告』

エドワード・スノーデンほか

アメリカ合衆国による盗聴などの情報収集を告発し、国から逮捕状を出されて現在ロシアに滞在中のスノーデン。911以降、「テロ防止」を名目に無差別監視を始めた米国の教訓から、彼は日本の現状にも警鐘を鳴らしています。

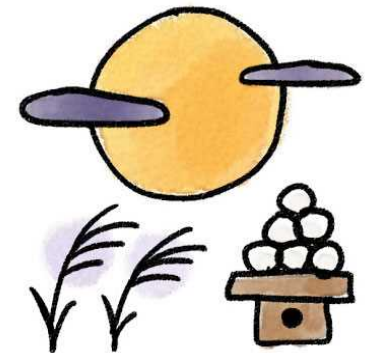
なお、本の後半は「信教の自由・プライバシーと監視社会」という題で有識者4人によるパネルディスカッションです。(スノーデンは含まれていません。)

～受験シーズンに向けて～

朝日新聞出版による、おなじみの『2018年版 大学ランキング』。全国の大学を「就職率」や「資格、採用試験」、「教育環境」など様々な角度から格付けする本です。志望校選びの一助に、ぜひ、『現役国立大学教授がそっと教える A0・推薦入試 面接小論文対策の極意』は長いタイトルが全てを説明してくれています(笑)が、結構「目からウロコ」な所に「極意」があるみたいですよ。詳しくは、一読してみてください。

また『A0・推薦入試は「志望理由書」が9割』

はむしろ1・2年生にこそ読んで欲しいです。なにしろ「生徒会活動」や「校外活動」を積極的に行うと有利、と書かれていますからね。



今号のひとこと

世界に不要のものなし。

南方熊楠(みなかた くまぐす 1867-1941)

今年生誕150周年を迎える、粘菌学者の南方熊楠の言葉です。この言葉が伝えたいことは、「細菌たちは食べ物を腐らせたりして害があるとも言えるが、逆に細菌による腐敗がなければ、世の中は死体だらけになってしまう。死体を分解して別の生物にとっての養分に変えるための、細菌類による腐敗はなくてはならないものだ。」というものです。微生物の研究者らしい言葉ですね。

ちなみに、私の実家近くの寺(和歌山県田辺市の高山寺)に熊楠氏の墓がありますが、見ると所々傷んでいます。これは死んだ父によれば、「ギャンブラーたちがゲンかつぎのために熊楠の墓石を削って、お守りがわりにしている。」のだとか。(笑)恐るべし、熊楠。